

第2部 ヒアリング等調査

調査概要

1 調査の目的

このヒアリング等調査は、第1部のアンケート調査では十分に把握しきれない「不登校の子ども」、「多様な文化的背景をもつ子ども」、「障がいのある子ども」及び「児童養護施設等に入所している子ども」に対して、アンケート調査やヒアリングなどにより、それぞれの子どもたちの実態や意識状況を把握することを目的とする。

なお、第2部のアンケート調査は、第1部で使用した調査票(質問紙)を基本にし、それぞれの調査対象の状況に応じて若干の修正を加え実施した。

1 調査の設計

本調査の設計は以下のとおりである。

(1) 不登校の子ども

調査対象

調査の時点で、長期間学校へ通っていない子ども及び相談指導学級等へ通っている子ども

調査方法

ア 川崎市総合教育センターをとおして適応指導教室、相談指導学級に通っている子どもにアンケートを配付し、回収した。

イ 不登校の子どもをサポートしているNPO法人の協力により、アンケートを配付し、回収した。また、承諾を得られた子どもにヒアリングを実施した。

ウ 不登校の子どもの親の会等をとおして、子どもにアンケートを配付し、郵送により回収した。

回収結果

総数 76人

(2) 多様な文化的背景をもつ子ども

調査対象

日本語指導等協力者派遣対象児童・生徒、帰国児童・生徒、朝鮮学校に通っている子ども、国際結婚により生まれた子ども等

調査方法

ア 川崎市総合教育センターをとおして対象児童・生徒の意向を確認し、了解を得た上で、在籍校に出向き、アンケートの説明と記入、ヒアリングを行なった。

イ 川崎朝鮮初中級学校及び南武朝鮮初級学校にアンケートの配付及び回収を依頼した。

ウ ふれあい館にアンケートの配付及び回収を依頼した。

エ 日本語指導等協力者派遣対象の子ども及び派遣されていた子どもに学校をとおしてアンケートを配付し、直接または郵送回収した。

オ 帰国児童・生徒に学校をとおしてアンケートを配付し、回収した。

回収結果

総数 110人

(3) 障がいのある子ども

調査対象

聾学校に通う子ども及び地域療育センターに通う子ども

調査方法

ア 聾学校に質問紙の配付及び回収を依頼した。

イ 南部、中部及び北部の地域療育センターに質問紙の配付を依頼し、郵送による回収を行った。

回収結果

総数 14人

(4) 児童養護施設等に入所している子ども

調査対象

ア 市内の児童養護施設にアンケート及びヒアリングの当日入所している子どもで、アンケート及びヒアリングの両方又はどちらか一方への協力を承諾してくれた子ども

イ 中央児童相談所の一時保護所にアンケート及びヒアリングの当日入所している子どもで、アンケート及びヒアリングの両方またはどちらか一方への協力を承諾してくれた子ども

調査方法

ア あらかじめ施設に調査の趣旨を説明し了解を得た上で、入所している子どもに秘密厳守などの約束事項や調査日程などについて記載したチラシを配付してもらった。

イ 後日、担当権利委員会委員が施設に出向き、質問紙を読み上げ、及び質問に答えながら子ども達に回答してもらった。

回収結果

総数 23人